

## 設楽町奥三河郷土館へ遺物の貸出を行いました

総務調査課の城ヶ谷です。

2月16日、**設楽町奥三河郷土館**へ遺物の貸出を行いました。貸出遺物は設楽町**川向東貝津**(かわむきひがしかいづ)遺跡、**西地・東地**(にしち・ひがしち)遺跡から出土した**縄文土器・石器**等です。

設楽町では平成18年から**設楽ダム建設**に関わり、多数の遺跡が発掘調査されています。その結果、旧石器・縄文時代を中心にして、**愛知県の歴史像がより明確になるような大きな成果**が上がっています。

**川向東貝津遺跡**からは**後期旧石器時代から縄文時代草創期にかけての良質な石器群**が見つかっています。これらの石器群は県内のみならず周辺地域を含めたこの地域の指標となる重要な資料と考えられています。

右の写真は**後期旧石器時代の石器群**です。1は**尖頭器**(せんとうき)で突き刺すもの。2は**彫器**(ちようき)で削る工具です。3は**敲石**(たたきいし)で敲く道具です。4はそれぞれ**細石刃**(さいせいじん)と呼ばれるカミソリの刃のような薄い石器です。5は細石刃を作る元になる**細石核**(さいせきかく)です。

**日本列島の細石刃文化の起原はシベリアのバイカル湖付近**だといわれています。どのようにして細石刃文化がこの地まで伝わってきたのでしょうか。

**西地・東地遺跡**からは竪穴建物や土坑群で構成される**縄文後期初頭を主体とする集落跡**が見つかっています。県内でもこの時期の集落跡の発掘例は少なく、空白を埋める資料となります。写真6は**縄文時代後期の深鉢**で、**埋壺**(うめがめ)として埋設されていたものです。

お貸した遺物は今年5月にリニューアルオープンする**設楽町奥三河郷土館常設展**で展示されます。奥三河郷土館は収蔵品が1万点を超え、以前から**北設楽郡の歴史・民俗研究の拠点**となってきた所です。どんな展示になるのか楽しみです。ぜひご覧になってください。



## 秋の特別公開2020を開催しました

総務調査課の城ヶ谷です。

今年度も11月4日(水曜日)から11月12日(木曜日)まで「**秋の特別公開2020**」を開催しました。

今年は公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターと共催で、同時に「**考古学体験ツアー2020秋**」も実施されました。**拓本体験**や**壺釣り**では、**親子で楽しそうに取り組まれている姿**がたくさん見られました。

**ご来場ありがとうございました。**



**拓本にチャレンジ** いい手つきです !!



やってみると...「**楽しい ♪**」という声が...



朝日遺跡出土弥生土器の拓本を採ります



拓本をラミネートして「Myしおり」を作ります



壺釣り なかなかの人気でした



うまくだれるかな～？

### 蒲郡市博物館へ遺物の貸出を行いました

総務調査課の城ヶ谷です。

10月14日蒲郡市博物館へ遺物の貸出を行いました。貸出遺物は名古屋市名古屋城三の丸(なごやじょうさんのまる)遺跡、新城市島田陣屋(しまだじんや)遺跡、岡崎市滝町古窯(たきちょうこよう)から出土した陶磁器等です。

これらの遺物は、蒲郡市博物館企画展「カケラノチカラ 出土片にみる江戸の暮らしと窯都瀬戸」で展示されています。

今回お貸した名古屋城三の丸遺跡出土遺物は愛知県警本部北館地点から出土したものです(写真右)。この調査区の北側部分には尾張藩附家老竹腰山城守の屋敷地も含まれていると推定されています。

出土した陶磁器にはさまざまな形やデザインの碗・皿があります。産地も瀬戸が主体ですが、肥前、京都、中国産などもあります。碗・皿以外にも鉢、土瓶や油壺、甕、徳利など多種多様な陶磁器が見られます。これらのカケラたちを見ていると、「この器は江戸時代に、どんな人が、どんな風にして使っていたのか？」色々想像されて、ワクワクしてきます。



名古屋城三の丸遺跡出土遺物

また、滝町古窯は19世紀前半に瀬戸の工人が岡崎に向いて築いたものと考えられています。窯はちょうど「鬼祭り」で有名な瀧山寺の仁王門と本堂の間にある南側丘陵斜面に築かれており、操業にあたっては瀧山寺と何らかの関係があったと思われます。

今回お貸した遺物の中に2点の窯道具があります。それは「エブタ」と呼ばれるもので、製品を入れて焼く「匣鉢(こうばち)」の蓋になるものです。1点は蓋の表にへらで顔を描いています(写真左下)。もう一点は表に「東叡山 青龍院内 栗田源二郎 源盛方」の文字(写真下右)、裏に家紋がへらで書かれています。「東叡山」は上野寛永寺の山号で、その子院の一つに「青龍院」があります。江戸時代の初め、寛永寺開山天海の弟子亮盛は青龍院住職でしたが、瀧山寺の住職を兼ねるようになったと言われています。

さて、エブタに描かれた人物は誰なののでしょうか？陶工の自画像でしょうか？また、名前が出てくる二人の人物はどんな人たちなののでしょうか？



お貸した遺物は10月24日から11月29日まで蒲郡市博物館でご覧になれます。→ 展覧会は終了しました

## 名古屋市教育委員会へ遺物の貸出を行いました

総務調査課の城ヶ谷です。

9月11日名古屋市教育委員会へ遺物の貸出を行いました。貸出遺物は朝日遺跡から出土した古墳時代の土器・玉類・木製品・骨角器などです。

朝日遺跡は東海屈指の弥生時代の大集落として有名ですが、人が住み始めたのは縄文時代後期からです。弥生時代中期前葉には三重の濠で囲まれた区画を擁する巨大集落が出現しますが、中期後葉には各地で砂の堆積が確認されるなど、洪水にみまわれ大きな被害を受けたと想定されています。弥生時代後期には環濠集落が復活しますが、やがて衰退し、弥生時代の終わりから古墳時代の初め頃、おおよそ3世紀前半代には、人も減り散在的に竪穴建物が営まれる程度になります。そして、いつしか人の活動は途絶えてしまいます。

朝日遺跡に再び人の活動が見られるのは5世紀になってからです。この頃、朝日遺跡では住居跡は見つかっていませんが、小規模な円墳が築かれており、土師器や須恵器などが出土しています。古墳時代の朝日遺跡ではどのような光景が見られたのでしょうか。

今回お貸した遺物は令和2年9月24日から12月13日まで名古屋市守山区体感！しだみ古墳群ミュージアムで開催されている秋の企画展示「古墳時代の朝日遺跡」で展示されています。ぜひご覧になってください。

[体感！しだみ古墳群ミュージアム](#) ← ここをクリック → 展覧会は終了しました。



壺口縁部に施され「弧帯文」



滑石製勾玉と碧玉製管玉

## 県立岡崎高等学校の生徒のみなさんが施設見学に来てくれました

総務調査課の城ヶ谷です。

8月18日に県立岡崎高校の先生、生徒のみなさんが進路学習の一環で、施設見学に来てくれました。

最初に「遺跡の調査について」というテーマで、考古学の方法と考古学の基本である土器・陶磁器の発達について講義をしました。そのあとランダムに置いてある縄文時代から江戸時代までの各時代の出土土器・陶磁器を実際に手に取って、時代順に並べるという演習に取り組んでもらいました(写真右上)。なかなか難問でしたが、真剣なまなざしでチャレンジしていただきました。

次の施設見学では、展示室の他に一次整理室で設楽町から出土した縄文土器の接合作業を見てもらいました(写真左下)。細かな作業にみなさんは驚いたようでした。

最後に考古学実習では、それぞれ選んだ朝日遺跡出土の弥生土器の拓本を採ってもらいました。初めての経験で最初は戸惑っていた様子でしたが、回を重ねるごとにきれいに採れるようになりました。

短い時間でしたが、みなさん熱心に、かつ楽しそうに取り組んでいただきました。

今回は考古学から歴史を学ぶという取り組みでしたが、「日本史の授業でやったところがつながって、より深く学ぶことができました。過去の人が生きていた証を見たようにも感じて、今までよりも親近感(?)を感じました。」とか「日本史の勉強にも活力が入りそうです。」といった感想が聞かれました。これからもいろいろなことに興味を持って、自らの「学び」を広げていって欲しいと思います。





講義：土器はどのようにして発達してきたか

本物の土器の前に興味津々です。



たくさんの縄文土器！どのように復元するの？



実習：拓本にチャレンジ!!

---

## 公益財団法人瀬戸市文化振興財団へ遺物の貸出を行いました

---

総務調査課の城ヶ谷です。

8月11日公益財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センターへ遺物の貸出を行いました。貸出遺物は名古屋市**名古屋城三の丸**(なごやじょうさんのまる)遺跡、清須市**清州城下町**(きよすじょうかまち)遺跡、岡崎市**滝町古窯**(たきちょうこよう)から出土した陶磁器です。

日本における磁器生産は17世紀初めに九州有田で始まったとされています。それに対して瀬戸では約200年後の19世紀初め、加藤民吉が九州からその製法を持ち帰ったことにより、磁器生産が始まったということです。史料ではそれ以前にも染付(磁器)の生産を行っていたという記録があるようですが、この時期の窯跡の調査例が少なく、実態はよく分かっていません。今回の展示は瀬戸における磁器生産の成立と展開をテーマとしたものだそうです。

名古屋城三の丸遺跡や清州城下町遺跡の出土品には江戸時代後期の資料が豊富にあります。なかには名古屋城三の丸遺跡の武家屋敷地から出土した中国清朝の磁器(写真右上、写真下)もあります。写真右上の小椀は白磁碗で、毛彫りで唐草文を刻し、その上に緑色顔料を施した上品なものです。写真下は鶴の文様を描いた染付の蓮華(れんげ)です。どんな人が使っていたのでしょうか。

お貸した遺物は10月17日から愛知県陶磁美術館陶芸展示室(ギャラリー)で開催される「磁器生産の成立と展開—江戸後期の瀬戸窯と美濃窯—」でご覧になれます。 → 展覧会は終了しました。



写真左上：梱包を待つ清州城下町遺跡出土遺物

豊富な種類の陶磁器が揃っています。

写真右上：名古屋城三の丸遺跡出土白磁碗

写真下：名古屋城三の丸遺跡出土染付蓮華

---

## 朝日遺跡出土遺物への取材がありました

---

総務調査課の城ヶ谷です。

8月13日、ライター**譽田亜紀子**さんが朝日遺跡出土遺物の取材に来られました。朝日遺跡出土遺物は11月22日の「**あいち朝日ミュージアム**」オープンに向けて移動の準備が進んでいますが、梱包前であったため、見ていただけました。

譽田さんは赤彩(せきさい)土器や円窓(まるまど)付土器、装飾品等をご覧になり、県文化財室の担当者に熱心に質問をされていました。特に関心

を示されていた壺形土器(写真右)は弥生後期の北区画の環濠のすぐ外側の溝から出土したものです。肩の部分しか残っていませんが、赤と黒の丸の模様を交互に配したデザイン性の高いものです。このような黒っぽい模様を使った土器は朝日遺跡でもほとんどありません。

今回の記事は月刊誌『ひととき』11月号に掲載されるそうです。なお、この雑誌はJR東海道新幹線グリーン車の座席に1ヶ月搭載されるということです。機会があれば、ご覧になってください。



遺物撮影風景



朝日遺跡出土壺形土器

---

### 朝日銅鐸の三次元写真計測が行われました

総務調査課の城ヶ谷です。

7月20日、朝日遺跡から出土した国指定重要文化財朝日銅鐸の三次元写真計測などが行われました。

本センターが所蔵している朝日遺跡出土遺物は国指定重要文化財を含め、全て、令和2年11月22日にオープンする「あいち朝日遺跡ミュージアム」(清須市)に移管されます。現在は、移管に向けた準備を行っていますが、オープンを前にあいち朝日遺跡ミュージアムの展示等の準備も着々と進められています。

今回はミュージアムで使うレプリカやジグソーパズル等を製作するため、計測や調査が実施されました。日頃は収蔵庫に厳重に収蔵されている朝日銅鐸が計測のために久々に登場しました。

また、これと併行して、朝日遺跡出土巴形銅器のレプリカ制作のための色合わせなども行われました。巴形銅器とは弥生時代から古墳時代にかけて見られる青銅製裝飾金具の一つです。この独特の形は南海産のスズガイ(水字貝)に起源があるとされていますが、スズガイは沖縄や先島諸島では古来から魔除けとして、家の玄関や門などに飾られているということです。

どちらもできあがりを楽しみます。オープン後、ミュージアムでご覧ください。



朝日銅鐸



三次元写真計測を行っています



巴形銅器



慎重に色を調べています

---

### 県立大府東高等学校で出前授業を行いました

総務調査課の城ヶ谷です。

7月15日に**県立大府東高等学校**で**出前授業**を行いました。

3年生普通科の総合的な探究の時間「考古学入門～実物の土器に触れ、歴史を読み取る～」で「**ものづくり大国あいちの源流～土器から歴史を読み取る～**」というテーマで授業を行いました。授業の後半では実際に遺物を手に取って年代を考える実習をしていただきました。

この「総合」の時間では、付近の神社や遺跡等を調べたり、踏査したりして郷土の歴史を考古学の視点から探求されているということです。**授業ではとても熱心に取り組んでいただきました。今回の出前授業が、今後の皆さんの探究活動に少しでも役に立てれば幸いです。**

業後、遺物を台車に乗せて帰ろうとした時、廊下で生徒の皆さんがたくさん集まってきてくれて、土器をお見せしました。なかなか実物を見て触ることは無いと思われるので、ちょうどいい機会でした。



各時代の土器について概説しました。



手に取ってじっくり観察していただきました。

### 幸田町郷土資料館へ遺物の貸出を行いました

総務調査課の城ヶ谷です。

7月9日、**幸田町郷土資料館**へ遺物の貸出を行いました。貸出遺物は名古屋市**名古屋城三の丸**(なごやじょうさんのまる)遺跡・東海市**烏帽子**(えぼし)遺跡を始め5遺跡から出土した**ガラス**に関わる遺物です。

国内でガラス製品が出土するのは**弥生時代**からです。この頃は大陸からもたらされた製品を加工していたものと思われます。**飛鳥時代**になると**国産ガラスの製造が始まり**、寺院や仏像の装飾に大量のガラス製品が使われるようになりました。しかし、平安時代には徐々に衰退し、室町時代末には国産ガラスの製造が見られなくなりました。

その後、しばらく製造が途絶えていましたが、16世紀、**南蛮人の渡来**とともに西洋の文物が流入し、**江戸時代初期**には**長崎**で再び**国産ガラスの製造**がおこなわれるようになりました。やがて**大阪**、**京都**、**江戸**などにも生産が広がっていきます。江戸時代のガラスは「**ぎやまん**」「**ビードロ**」と呼ばれ、装飾品や容器などが生産されました。

**名古屋城三の丸遺跡**からも**簪**(かんざし)や**笄**(こうがい)などのガラス製装飾品が出土しており、今回の展覧会でも一部が展示されます。

ガラスは原料を溶解する際に一緒に加える成分により、様々な色に発色します。その色の変化や透明な輝きは当時の人々を魅了したのもと思われます。



ガラス製勾玉(烏帽子遺跡:古墳時代)



また、**割れた陶磁器を補修**するのにガラスを使っています(写真右:中央から右下へ補修の痕跡が見えます)。大切な鉢だったのかも知れませんね。

今回貸し出した遺物は**7月18日(土曜日)**から始まる幸田町郷土資料館夏季企画展「**ガラス・Glass・がらす**」で展示されます。この展覧会では弥生時代から近世にいたる各時代のガラスに関わる遺物が展示されます。**涼しげなガラスを見ていると、しばし暑さも忘れられるのではないのでしょうか！**

→ **展覧会は終了しました**



染付鉢(名古屋城三の丸遺跡:近世)

### 月縄手遺跡出土遺物の三次元計測調査が行われました

総務調査課の城ヶ谷です。

5月26日、南山大学人文学部中尾准教授と中川研究員が**月縄手遺跡出土の弥生時代前期の甕形土器**(かめがたどき)などの**三次元計測**に來りました。

月縄手遺跡は名古屋市西区比良に所在する弥生時代から古墳時代を主体とする遺跡で、**弥生時代前期遠賀川式土器**(おんががわしきどき=弥生時代前期の水田稲作伝播の指標とされる土器)を主体とする土器群が見つかり、注目された遺跡です。

今回の調査は、文部科学省科学研究費助成事業新学術領域研究「**出ユーラシアの統合的人類史学: 文明創出メカニズムの解明**」の一環で、各地の考古遺物を**三次元レーザーキャナー**で計測し、そのデータをもとに**データベース**を作成されるということです。

そして、そのデータベースをもとにして**文明創出メカニズムのモデル**を構築するとともに、**データベースを一般公開**することで、さまざまな研究を促進することに寄与するということです。

以前は土器の厚みを測るのに、測点を取ったり、キャリパーという道具を使ったりしながら、苦勞して測っていましたが、三次元レーザーキャナーを使うと短時間で正確に測定することができるということです。

これらのデータを活かして、様々な研究が進展することを期待したいと思います。



写真 月縄手遺跡出土甕形土器(左)

三次元レーザーキャナーで遺物を計測しているところ(右)

